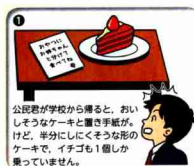


対立から合意へ

社会生活のトラブルを防ぐために

一つのケーキがあった



東京法令『ビジュアル公民』2019 p.26

対立の始まり



東京法令『ビジュアル公民』2019 p.26

どうすれば二人が納得するか



東京法令『ビジュアル公民』2019 p.26

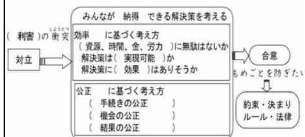
4つの解決方法の どれが良いか？

- ①じゃんけんをして、勝った方が全部食べる。
- ②お母さんがケーキを均等になるよう切り分ける。切り分けた結果には絶対に文句を言わない。
- ③姉弟のどちらか一方がケーキを全部もらう代わりに、もう一方にそれに見合ったもの(明日のおやつ、テレビのチャンネル権など)を譲る。
- ④姉弟のどちらか一方がケーキを好きなように切り分け、もう一方が先に選ぶ。

〔道村内正人「自分で考えるちやっと書った法学入門」有斐閣による〕

東京法令『ビジュアル公民』2019 p.26

対立から合意・約束へ



ルールをどう決める

10年前のマンションの駐輪場問題について考えよう

1 問題の状況

10年前にマンションが完成し、全戸100世帯が完成した。当初は100台分の駐輪場が造られていたが、20台分は空きのまま残り、管理組合は20台分の駐輪場を造ることに決めた。



10年前にマンションが完成した。当初は100台分の駐輪場が造られていたが、20台分は空きのまま残り、管理組合は20台分の駐輪場を造ることに決めた。

10年前にマンションが完成した。当初は100台分の駐輪場が造られていたが、20台分は空きのまま残り、管理組合は20台分の駐輪場を造ることに決めた。

東京書籍『新しい社会 公民』2016 p.28

駐輪場を使うルールをどう決める

○10年前にマンションが完成し、合計100世帯が同居した。

○合計100台分の駐輪場が造られていたため、だれがどのように使うか、全世帯が加入する管理組合で話し合って、利用規則を作る必要があった。

東京書籍『新しい社会 公民』2016 p.28

ルールを決める手続き

2 解決のための話し合い



○駐輪場の問題が解決するまで話し合いは、長い時間がかかった。10年前の100台分の駐輪場を造ることに決めた。

3 決めるための話し合い

○駐輪場の問題が解決するまで話し合いは、長い時間がかかった。10年前の100台分の駐輪場を造ることに決めた。

3 決めるための話し合い



○駐輪場の問題が解決するまで話し合いは、長い時間がかかった。10年前の100台分の駐輪場を造ることに決めた。

3 決めるための話し合い

○駐輪場の問題が解決するまで話し合いは、長い時間がかかった。10年前の100台分の駐輪場を造ることに決めた。

東京書籍『新しい社会 公民』2016 p.29

多数決 と 全員一致

- 駐輪場利用規則を決める話し合いは、関心が高く、全ての世帯が出席して議論した。
- 住民の希望を調べたところ、1世帯1台ずつ駐輪場を使うことにすれば問題がないことが分かった。
- 管理組合の議決は多数決だが、駐輪場利用規則は、反対意見がなく、全会一致で決まった。

駐輪場利用規則

- ・駐輪場は、1戸(1世帯)あたり1台利用することができる。
- ・決められた場所以外に駐輪しない。
- ・盗難防止は自分で行う。

東京書籍『新しい社会 公民』2016 p.29

状況が変わったら

現在のマンションの駐輪場問題について考えよう

1 問題の状況

○10年前、今の100台分の駐輪場では足りないという不満が出てきた。そこで、マンション敷地内にあった空きスペースを効率的に活用して新たに駐輪場を造り、さらに20台の自転車を置くことが可能になった。



2 問題を解決する話し合い

○管理組合の話し合いは、長い時間がかかった。10年前の100台分の駐輪場を造ることに決めた。

○管理組合の話し合いは、長い時間がかかった。10年前の100台分の駐輪場を造ることに決めた。

東京書籍『新しい社会 公民』2016 p.30

何が問題か

- 住民から、今の100台分の駐輪場では足りないという不満が出てきた。
- そこで、マンション敷地内にあった空きスペースを効率的に活用して新たに駐輪場を造り、さらに20台の自転車を置くことが可能になった。
- 住民の希望を改めて調査すると、2台目の自転車を駐輪したいと答えたのは30世帯だった。そのため、新設した20台分の駐輪場をだれが使うかで議論になった。

東京書籍『新しい社会 公民』2016 p.30

解決のための話し合い

3 解決のための話し合い



4 話し合いの様子



5 決まりの内容、評価

評価項目	評価結果
①目的を実現するための適切な手段になっているか。	はい いいいえ
②だれにとっても同じ内容を意味するものになっているか。	はい いいいえ
③決まりを作る過程にみんなが参加しているか。	はい いいいえ
④立場をかえても受け入れられるものになっているか。	はい いいいえ
⑤みんなのお金や物、土地、労働などが無駄なく使われているか。	はい いいいえ

6 決まりのまとめ

①決まりを作るための話し合いの過程を振り返る。どのような話し合いの過程であったか。話し合いの過程で決まった決まりの内容を振り返る。決まりの内容が、どのような話し合いの過程で決まったか。話し合いの過程で決まった決まりの内容を振り返る。決まりの内容が、どのような話し合いの過程で決まったか。話し合いの過程で決まった決まりの内容を振り返る。

東京書籍『新しい社会 公民』2016 p.31

決まりを「評価する」視点

評価の項目	評価結果
①目的を実現するための適切な手段になっているか。	はい いいいえ
②だれにとっても同じ内容を意味するものになっているか。	はい いいいえ
③決まりを作る過程にみんなが参加しているか。	はい いいいえ
④立場をかえても受け入れられるものになっているか。	はい いいいえ
⑤みんなのお金や物、土地、労働などが無駄なく使われているか。	はい いいいえ

東京書籍『新しい社会 公民』2016 p.31

阪神・淡路大震災の記憶

神戸市東灘区深江



1995年1月17日

阪神・淡路大震災の記憶



阪神・淡路大震災の記憶

阪神高速道路・西宮市



1995年1月17日

阪神・淡路大震災の記憶



阪神・淡路大震災の記憶



阪神・淡路大震災の記憶



阪神・淡路大震災の記憶

芦屋市で



1995年1月17日

阪神・淡路大震災の記憶



阪神・淡路大震災の記憶

神戸市で



1995年1月17日

阪神・淡路大震災の記憶



中学校の体育館の避難所 神戸市で

避難所の運営委員会で

- 避難所の中学校に1,000人超の住民
- 乳児を抱えた母親が20人、幼児60人、小学生が200人、80歳を超えた高齢者が300人、中学生100人、高校生と大人の男女あわせて400人
- 食料がなくなった
- 午後5時に、弁当800個が届けられた
- どんな方法で弁当を配るか